

# "まさか、"といつて 笑える心をつくる

福田志保 ほか

## 1. 授業案

日時 昭和五十年八月四日午前九時四十五分～十時

三十分

児童 福井県勝山市平泉寺小学校二年、福田学級

男子十三名・女子五名 計十八名

三領域 構え(構えの転換)

四授業テーマ 「まさか」といって笑える心を作る

五教材 「あたま山」(落語)

六授業テーマ及び単元設定の理由

「あたま山」はあり得ない話なのだけでも、そんな気にさせられること自体に、おもしろさがある話である。といつても、これは大人が考える「あたま山」の感情であり、果して子どもたちは、そう取ることが出来るだろうか。夏休み前に、二年生にわらい話をしたところ、「まさか」と笑うはずであると想像していた子どもの顔は、驚きと拒否反応に満ちていた。話を話として真剣に考えすぎるが故に、少しもこの話で遊ぶことが出来ないでいる。「お話なのですよ。」等といつても、焼け石に水の状態であった。これは、話を話として、おもしろがり、遊ぶという構えが皆無の状態だからだろう。

「誠にしき腔ありとも、腔らしき誠いふべからず。」という古人の金言があるが、「あたま山」は、前半の「誠にしき腔」ということになる。笑い話の世界は、おおむね、このようならそこから発生した尾ひれを取り扱う。本当は、うそなのだが、誠にしくその気にならせる状態に笑いが伴うということを、意図して作られているものが多い。

だが、子どもたちはなかなか、「まさか」を許容の

意で抱える構えがとりにくい。むしろ、あとの方の「腔らしき誠」の方を行っているように思える。自分の思う範囲でしか事実を見ることが出来ないにもかかわらず、事実に自分の感情をくっつけていく構えの取り方が、大部分であるように見受けられる。

日常子どもたちの口から、「まさか」という語をほとんど聞かない。よしんば聞くことがあったとしても、拒絶、拒否の姿勢が前面に出て、「本当？」と疑う気持から、直ちに「うそだ」という二者択一の迷いがあるまでである。さらに一歩を進めて、「まさか」という余裕のある構えがとれない。

「まさか」と笑う大人の構えは、ある成長点に達した、拒否・拒絶から許容へと転移したものと考える。

まだ未発達な過程の子どもたちが、拒否・拒絶の固い構えから、許容の「まさか」へ構えを和らげ転換することが出来たとき、この「あたま山」の笑いが、可能になる。

### 七単元の目標

本当はそんな事起こるはずないのだけれども、そんな気にさせられること自体を楽しむことが出来るようにする。また笑い話は、そうした意味でのある方法を持った作り話であることをわからせることによって、よりおもしろく、よりおもしろく話を作ることが出来るようにする。

### 八指導計画(一時間)

ありそうもないことを、さもあるように作ることが出来るようにする。

学習活動

○ 本時のねらいを確認する。

- カード①の確認
- カード①の続き話を考える。
- カード②の確認と理解

○ カード③の理解ののち

指導上の留意点

○ きょうは、お話をします。そのお話はうんとおもしろい話でなければなりません。

あるところに、けちなけちべえさんがいました。けちべえさんは、さくらんぼが落ちてゐるのを見つけてきました。

このあとを、続けてもらいます。うんと、おもしろい話でなければなりません。「ありそうもないことを、さもあるように作ります。」(くり返し復唱させる)

○ 学習の方法を児童に理解させるためのものである。○ 発表内容を板書する。

さくらんぼを食べました。たねごと食べました。

ここまでが本時の導入。本時のねらいと方法を徹底させる。

まいにち、おおぜい③の人が花見をしてど

けちべえさんは：のあとに予想されるありそうもないことでも、さもありそうな話をつくる。

○ カード④の理解ののち、あると

：のあとに予想されるありそうもないことでも、さもありそうな話をつくる。

○ カード⑤の理解ののち、そのあとに予想されるありそうもないことでも、さもありそうな話をつくる。

んちゃんさわぎをしました。けちべえさんは：○ けちべえさんの頭の上的木であることを再確認しておく。

けちべえさんは、うるさいので、頭の木をぬいてしまいました。すると：

④ けちべえさんは、うるさいので、頭の木をぬいてしまいました。すると：

○ 切ってしまいました。血が出ました。などの反応より、木をぬいてしまいました：の方がより、ありそうもないことでもあり、さもありそうで、あって、おもしろいことを知らせる。

すると、あたまたに、

⑤ ぽっかりと穴があきました。

夕だち(大雨)がふ⑥って、大きな池になりました。

○ 夕立・大雨のいずれでも良い。

作る。

○ カード⑦の理解ののち、そのあとに予想されるありそうもないことでも、さもあり

○ カード⑧で終りにする。終りにするために、最高のおもしろさを持たねばならぬ。

○ 「これまでより一番、ありそうな話でなければなりません。」

○ 「これが最高のおもしろさであることを主張させる。もし、子どもの出したものが、カード⑧以下であるならば、⑧がすぐれていることを、確認する。(⑧のあとに原文をつかえて示す。)

⑦ 池はプールになりました。

○ 池の中で、どのようなできごとや事件があるか十分に考えさせる。

⑧ けちべえさんは、うるさいので：(原文：頭の池にとびこみました。これを最後に提示する)

## 2. 授業記録とその所見

T K おもしろい話、知っているかな。

C (うなずく)

T K きょうはね、おもしろい話を作ってもらいます。  
C 出来ないよ。

T K こんなのは。むかしむかしもがどんぶらこ流れてきました。そしてものを拾ってきて、おばあさんが、それを切ると、ものの中から、男の子が出て来ました。

C そんなの。知ってらい。もも太郎だ。おもしろくないよ。ねんねくさいよ。

T K じゃ、ものを切ったら、中から、おばあさんが生れてきました。

C あっはは……

C それならおもしろい。

T K それならおもしろい。どうして。

C (N) おばあさんだから。

C (H) おばあさんは、生まれてこないもん。

T K こういうふうに、きょうはおもしろい話を作ってもらいます。だけどね。きまりを守ってもらいます。ちょっと黒板を見て下さい。ここに何て書いてあるかな。みんなで読んでみよう。

ありそうにもない話を、さもあるように作る。

きょうは、この作り方で作ってもらいます。

C できないよ。

C むずかしいな。

(F) きょうの学習は「話を自分達で作ることだ」ということは大部分の子がわかったと思う。但し「ありそうもない話を、さもあるように」ということばの

意味が漠然とでもわかったのは、永井と平瀬の二名だけだと思ふ。私ならばここで練習に入る前にくどくどと説明したと思ふ。合宿の時に話したように私など、少なくとも八割位は理解した上でないと、授業を進めてならないという何か思いこみがある。……)

T K じゃね。むずかしいから練習をしましょう。練習だからまちがってもいいですよ。おはなしの始まりはこうです。△黒板を示すV

ある所にけちなけちべえさんがいました。けちべえさんは、さくらんぼが落ちてゐるのを見つけた。

さ、この続きを作ってもらいます。ありそうにもない事をさもあるように作って下さいね。

C (N) 子どもが、けちべえさんに「それをくれ。」といいました。そうしたら、「あかん、あかん」というた。さくらんぼをひとりじめにした。

C (K) 一個しかないの、また拾おうとした。

T K けちべえさんは、さくらんぼを見つけてどうしたと思ふ。

C (S) 食べた。

C (H) 続き。食べてたら、その味を見たら、しょっぱかった。

T K これは、ありそうもない事?

C ないことをあるようにしたことだ。

T K さくらんぼを見つけたことは、ありそうもないかな。

C (T) あると思ふ。

T K じゃ、あることなんだね。これはだから、あまりうまくいかないね。△子ども達の発言を板書して、

その上に△印○印をつけていくV

T K じゃ、次にいってみよう。拾った事は?

C (N) ありそう。うんうん。

T K しょっぱい味は? ありそうにもないこと。

C (H) うんうん。

T K なかなか、むずかしいね。じゃ、これはどうかな△と、②を示すV

さくらんぼを食べました。

たねごと食べました。

C (K) ありそうでない。

(F) このあたりでは、ありそうもないことの意味は、わかってきたようだ。)

T K たねをどうする。

C うめる。する。

T K けちべえさんはどうしたの。

C たねごと食べた。

T K それが、ありそうもない事だね。

C (H) けちや、すてんで、けちやから、すてんで、

食べよったんや。

T K その調子。もうひとつ練習しよう。

C (N) 腹が痛い。

C (H) けちべえさんはおなかをこわしてしまいました。

C (T) おなかの中から芽が出て、ねっこがはえてきた。

T K 何の木がはえてくるの。

C さくらんぼの木

C (G) 頭の上から、木が出てきたの。

△今まで出てきた発言の板書を示しながらV

T K 今度は「ありそうでなさそうな話は作れたかな?」はらがないといいました。は? ありそうもな

いかな。

C 当然にあること。

TK おなかをこわしましたかは？

C 同じだ。

TK 根が出て木がはえた、は？

C1 うん、水をやらな、あかん。

C2 タネさかさまから生えて。

C3 おしりから根っこがはえてくる。

TK ありそうにもない事かな？

C うん。

TK 根はおしりからね。では芽は？

C 頭から。うんうんありそうもない。

TK さもあるようにを考えて下さい。

どうしてさもあるようになるの？

種ごと食べたから。

しばらくたってから、根が出て、けちべえは桜の木になってしまいました。

TK どうして桜の木、はえてくるの？

C(N) 種はスイカでも種でえ。何でも出来るんでえー。

(だからさくらんぼはさくらの木がはえてくる。)

C(H) あんまりけちでえ、さくらの木になってしまった。けちべえさくら。

(F) 桜の木が頭からはえてきたというよりは、けちべえさんが桜の木そのものになってしまったと考えているようだ。このまま話の続きを考えさせたいような気がする。けちべえさんどこへ行ってしまったか。その桜の木はどうなるか。ありそうもない事をさもあるように、のぶちゃん(平瀬)がどう作るか、知りたいと思う。)

(K) この授業を行うとき、はじめに持った危惧は、子どもたちが、こちらがタンザクを提示するそれぞ

れにどれだけついてこれるものかを見たいことと、

子どもたちの連想が一筋にのびることと、相殺されてしまうのではないか、ということであった。子どもの連想をさえぎってまで、こちらの意図する話へと移行させるべきなのか、否か。ということがあった。しかし授業の実際には子どもたちは話をその都度作っていき、また考えなおしながら、イメージをふくらましていった。)

TK 種を飲んだから、桜の木が生えてきてもおかしくない。その事が「さもあるような話」ですね。

こんな調子で「ありそうもない話をさもある様に」作って下さい。(カード③の提示)

けちべえさんの頭に、にょきにょき、桜の木が生えてきました。

TK さあこの後を考えて下さい。

C(G) そして、歩けんようになった。

C(N) けちべえさんは桜の木を切ろうと思いました。

C(Z) さくらの木とまちがえられました。歩いて

ると人に笑われました。

C(H) 桜の木が重いので、けちべえさん、地面の中にすわってしまいました。

C(O) 木が重いで、サクランボの木を切ってしまいました。

C(K) 頭の上にははえたのを切って、また切ったので、下のその穴に水が入って、お魚がいたの。(この児童は、この話、幼稚園で聞いた事があると言っている)

C(N) けちべえさんは桜の木を切ろうとしました。そして穴をほって、桜の木を埋めようとした。

(F) ここで、今まで発言しなかった子が発言し始めた。授業の雰囲気慣れたせいもあるのだろうか、

それ以前に発表した子たちの意見を聞いて、やり方がわかったのだと思う。それと、もうひとつは、頭に桜の木を生やした異様なけちべえさんの姿が、子ども達の頭の中ですんなり、思い描かれたのだと思う。だからこそ、けちべえさんの行動を想像できたのだろう。大人ならばそんな馬鹿なと否定するか、

そういうことにおきましよう。と、肯定するかするとを、子ども達は案外理屈抜きで許容することが出来る。楽しめるということには驚かされた。)

(K) 理屈抜きで、許容するというよりは、イメージが奇想天外性へと進んでいると考えるべきではないか。子どもたちのイメージが刺激合って、どんな話を作る要領がわかり、思考を介在させないイメージだけを連続させている。そんな感じがする。実は方法的にも、奇想天外の話作りだけに終らせないために、あくまでこのテーマを出しておいて、そして、カードでセーブしていたのだが、やはり作り話するおもしろさだけの波に乗っているという感じがする。)

TK ハカード④を示すV

毎日、おおぜいの人が花見をして、どんちゃんさわぎをしました。けちべえさんは、

TK さあ、このあと？

C(N) けちべえさんが踊るたびに桜の実が落ちて、踊っている人が、もう拾いたい、もっともったいをたいた。

(F) けちべえさんも一緒に花見をしていると考えているのだろうか。)

C(H) けちべえさんは桜の実が丁度なるときどんちゃんさわぎをしているときに、木を切ってしまうので、頭といっしょにとれてしまいました。

C(Z) 血が出てきました。

C(Y) それから抜いたから、頭も一緒に抜けてしまった。

C(N) 抜いた時、頭も一緒に抜けて、体までうちの屋根をこして、飛んでいってしまった。

(F) 子ども達は桜の木を抜くと頭ごと取れてしまうとか、考えている。これを授業に生かすことはできないか。)

(K) 桜の木とけちべえさんの頭が接続しているという考えだと全く異なる視点、という感じがしない。頭の上とけちべえさん自身との二つの視点が同時にあるとき、「まさか」を見い出すのではないかと思う。もしもここで取り上げるのなら、むしろこの前の「けちべえさんが踊るたび」のところを取り上げた方が良かったのではないか。しかしここで「まさか」を子どもたち自身が感じないのならばそれに気づいた時に、取り上げた方が良策と思った。)

△カード⑥を示すV

すると、頭にぽっかりと穴があきました。

TK さあ、出来るかな。

C(N) あるある、ある。

C(H) その穴の中に土を入れて、土の頭になって、人にわられました。

C(E) そして頭のはその寝ている時に全部出ていってしまった。

TF そうや、ますますからっぽになったね。

C(N) そして、泉と思って雨が降って、魚も入ってきて、いっぱい人がきて

C 金魚使いか。

C(N) 魚つりをして、自分もやってみたいと思って、ボートを入れた。

(F) おもしろい。恐らく、この子の頭の中では自分

もそのボートに乗っているのだろう。とすると、のついている箇所(「けちべえさんが踊ると」)というの、けちべえさんも、頭の上で花見をしていると考えてもいいのだろうか。いや、やはりそうではない。踊ると、さくらんぼが落ちるんだから、けちべえさんの体がゆれなければならぬ。とすると、けちべえさんと頭の上にいる人間との大小関係はどうなるのか。私はやはり福井県人です。)

(K) この所、授業で取り上げたいと思った。魚つりをしたいとボートを浮べるけちべえさんと、釣場の主であるけちべえさんと。ここで、はじめて「まさか」と笑える構えに迫れる様な気がした。でも、このとき無理やりその疑問を打ち出すよりも、最後のカードで、子どもたちの反応を見てからと思った。)

C(T) その穴の中にザリガニがいて頭を切ってしまった。

C 穴があいたので、あんまり痛いので、なんとかして、ふさいだ。

C(H) 魚釣をして、針がもう一回頭にひっかかって、もう一回引っ張ったり、頭がもう一回とれた。そして、もうけちな事をしなかった。

(F) 極めて道徳的ではあるが、話の結末、おちをつけている。それにしても頭がもう一回取れてしまったと言いながら、もう一方で、けちなことをしなくなったといっている。まさしく、ありそうもない事をさもあるようにではないか。)

(K) けちというの、この話の大部分を占めている。それがわかっている、いつまでも、けちにこだわる。こだわるところに、おもしろさが生れることをこの子は知っているのではないだろうか。)

△カード⑦カード⑧を示すV

大雨が降って、大きな池になりました。

池はプールになりました。

C 池に入れるかな。

C ブールだと、つぶれてしまうわ。

C(H) 池がプールになって、あんまりおもしろいので、けちべえさんは、つぶれてしまったので、セメントをつめてしまった。

TK ずいぶん、おもしろい話がたくさんできました。ではね、今度、ここでは一番最後のお話を作ってもらおう。

△カード⑨を示すV

TK いっぱいプールに人がいたので、

C けちべえさんは、うるさいので：：：うるさい。

TK さあ、このあと、これで、もう話が終るように、「ありそうもない事を、さもある様に作る」で、いちばん、ありそうでないおもしろい話を考えて、終りにして下さい。最後だから、気ばって作って下さい。

C(N) よっしゃ。

TK これでもうビッシリ終りにします。けちべえさんの頭の上で、うるさいので、けちべえさんは一体どうするのかな。

C(Y) うるさいので大声を出して、「うるさい」と言って頭をかかえた。そして走っていった。

(F) 普段は注意散漫で反応も鈍い子なのに素早く反応している。カード⑤を示したときの発言から、ずっと集中していたものと思われる。尚、この子は九月に教科書に出ている漫画をもとにして、紙芝居を作った時も、話を作る事が楽しくてしょうがない様

子だった。)

C(N) そして、あんまりうるさいので、「うるさい」って言って、頭をうーんとふったら、そうしたら、子どもは飛んでいってしまった。ぼーんて振ったら顔ごと、飛んでいって、死んでしまって、プールだけ残って、〃けちべえプール〃になって、うみになってしまった。

(F) けちべえさんは死に、池は残る。おちとしては、原文と同じである。あまりにも、出来すぎた様にすら、思えます。)

(K) 死で話をまとめようとする傾向がやっぱりあるのだなという気はするが、プールだけ、残るというのは、小憎い感じがする。)

O けちべえプールになった。

C(Z) あんまりうるさいのでプールの水ごとがあーってあけた。

C(N) 飛んでいって、また子どもが走ってきてまた乗ってとか。

C(E) 質問、頭小さいのに、プールにも泳げるし、海は大きいし、おかしいな。

C(H) それがありそうもない事や。

△カード⑩を示すV

あたまの池にとびこみました。

TK さあ、こんなのは、どう?

△⑩を示したとたん、間髪を入れず、第一声V

C(H) そんな事あるけえー。

とびこまれるけ。ありそうもないことやで。とびこまれるか。

頭をとってしまわなきゃいけん。

そうすると反対になるけん。

(K) ここから子どもたちの「ありそうでもない話を

さもある様に作る。」という構えの弱い点が見えた様に思う。今までは、イメージに頼って作ってきて、その「まさか」の構えがいかなるものであるか、思考的には問いつめていかなかった様に思える。こ

こで矛盾に始めて気がつくのが、えいちゃん。初步的な疑問として軽く流す平瀬君。しかしその平瀬君とても、カード⑩の出現には、「まさか」と思わず発してしまったと見たい。「そんなことあるけえー」

っていうのは表のコトバで、これは「まさか」ということばと、全く変わりないと思う。

「まさか」というもののしくみをこの子の頭の中で私自身が知った気がする。許容もはじめは驚きがあり、そして許容があるのだと、そして、この子にとっては、その「まさか」を今までやってきたことすら、《今までのお話作り》気づいていない。ということになってしまふ。)

C(N) 足の方から、入っていくと、またひっくり返ってしまふんで。

O 足から入れる? おなががポツンと切れてしまふし。

TK 「ありそうもないことを、さもあるように作る」んだよ。でも、これはだめ?

O いいけどさあ……ふたつに切れちゃってさあ……

TK 「ありそうもない事をさもある様に」だよ。

TK さあ、今まで作ったうちで、どれが、一番おもしろいかな。それをきいてみよう。

C(H) さいごのうるさいって言って、頭のとんでいったこと。

えいじ ぼっかり穴があいたっていうこと。

C(N) 頭を振ったら、子どもたちがとんでいってしまったこと。

(F) 自分の考えついたことが一番おもしろいと言っているが、それだけ、楽しんだ。この子たちにする

と当然の事だと思う。)

(K) 私などは、最後が決め手だと思うが、子どもたちにとっては、あり得ない事として、とらえる。あり得ないお話は、自分の路線にのせがたいのであろうか。)

TK きょうのお勉強どうだった。

O おもしろかった。

TK これからも「ありそうもないことをさもある様に」お話を作って下さい。

△もう一度、「ありそうもないことを、さもあるように」を声をそろえていわせる。V

O ハーイ

TK これで、おわりです。

(F) 授業をする前に恐れていた事が私の取りこし苦労に過ぎなかったことがわかり、子ども達を見直すとともに、私のこれまでやってきた国語教育に対する構えを立て直さなければならぬと思いました。

かといって、具体的な方策は何もないのですが……授業を終えてみて、最後まで、表情の動かなかった子が二人いました。この子達にとって、あの授業はさっぱりわからなかったのだと思います。)

(注) TK 授業者 小泉節子

TF " 福田志保

F 授業後の感想 福田志保

K " " 小泉節子)